

出エジ 21 出エジプト記 16 章 1 節～36 節

「シンの荒野にて」

1. 文脈の確認

- (1) イスラエルの民は、紅海を渡った。
- (2) 荒野の旅が始まった。
- (3) マラでの体験
- (4) エリムでの体験
- (5) エジプトを出て1ヶ月後にシンの荒野に入った。
- (6) 荒野の旅は、ご自身の民を訓練する学校でもある。

2. アウトライン

- (1) つぶやき (16 : 1～3)
- (2) 神の約束 (16 : 4～12)
- (3) マナの供給 (16 : 13～15)
- (4) マナに関する命令 (16 : 16～34)
- (5) 補足説明 (16 : 35～36)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) つぶやきの原因
- (2) 神からの試みの意味
- (3) マナが象徴するもの

このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

I. つぶやき (16 章 1～3 節)

1. エリムからシンの荒野へ

- (1) 第2の月の15日
 - ①エジプトを出たのは、第1の月の15日。
 - ②1ヶ月が経過した。
 - ③食物が尽きたころであろう。
- (2) エリムとシナイの間にある
 - ①エリムからおよそ30キロ

2. つぶやき

- ①全会衆：ヨシュアとカレブのような例外もあったであろう。
- ②モーセとアロンにつぶやいた。つぶやきが、パターン化してきている。
- ③マラでは、モーセに対してであったが、ここではアロンも加わっている。

3. つぶやきの内容

(1) 現状への不満

- ①食べ物が無い。
- ②あなたがたはこの全集団を飢え死にさせようとしている。
*誇張：彼らは大量の家畜を連れて出てきていたので食べ物があった。

(2) 過去を美化

- ①奴隷生活を美化している。
- ②エジプトで【主】の手にかかって死んでいたらよかったのに(10の災い)。

(3) 信仰とは、今に感謝し、将来に希望を持つこと。

- ①エジプトに下った10の災害から守られた。
- ②紅海を渡ることができた。
- ③マラの水が甘くなった。
- ④エリムに導かれた。

(4) モーセとアロンへの反抗は神への反抗である。

- ①聖霊を痛ませる罪(イザ63:10)
- ②神の人格への攻撃である。
- ③これは、私自身の罪でもある。
- ④リバイバルは私から始まる必要がある。

II. 神の約束(16章4～12節)

1. 神の恵みと忍耐

- (1) モーセは祈っていた(書かれてはいないが)。
- (2) ソドムとゴモラの上には硫黄の火が降った。
 - ①創19:24
 - ②ここでは、正反対のものが降る。

(3) 「見よ」

- ①何か超自然的なこと、驚くべきことが起ころうとしている。
- ②パンが天から降る。

2. この約束には命令がともなっていた。

(1) 内容

- ①毎日、1日分を集める。
- ②6日目には、2日分を集める。その理由はまだ述べられていない。

(2) 命令の目的

- ①イスラエルの民を試すため
- ②【主】の意図は、民が日々【主】に信頼して歩むようになること。
- ③人間の思いは、一時に大量のものを集め、蓄えを増やしたいということ。
- ④蓄えが増えることは、神から離れた生活、自立した生活につながる。

*マタ 19 : 23~24

3. 民に対するモーセとアロンの言葉

(1) 「夕方には、あなたがたは、【主】がエジプトの地からあなたがたを連れ出されたことを知り、」

- ①イスラエルの民は、モーセとアロンが民をエジプトから連れ出したと言った。
- ②そうではなくて、【主】が民を連れ出したのだ。
- ③夕方には、食物が与えられる。

(2) 「朝には、【主】の栄光を見る」

- ①パンが降ることによって、【主】の栄光とは、現実的な力である。
- ②あるいは、シャカイナグローリーのこと(出16:10)。

(3) 「あなたがたが、この私たちにつぶやくとは、いったい私たちは何なのだろう」

- ①自分たちは出エジプトの演出者ではない。
- ②民のつぶやきは、【主】に対するものである。
- ③アロンがモーセの代弁者として民に語っている。

(4) 【主】の栄光が雲の中に現れた。シャカイナグローリーの5番目の働き

- ①モーセを召した。

- ②イスラエルを導いた。
- ③イスラエルを守った。
- ④イスラエルのために戦った。
- ⑤必要な食物を供給する。

4. モーセに対する【主】のことば

- (1) イスラエル人のつぶやきを聞いた。
 - (2) 民に伝えよ。
 - ①夕暮れには肉を食べるようになる。
 - ②朝にはパンで満ち足りるようになる。
 - ③「あなたがたはわたしがあなたがたの神、【主】であることを知るようになる」
 - *契約の神
 - *恵み深い神
 - *必要なものはすべて与える神
 - ④マタ 6 : 31～34

Ⅲ. マナの供給 (16章 13～15節)

- 1. 夕方になると、うずらが飛んできた。
 - (1) エジプトの方から、紅海を超えて。
 - (2) 宿営をおおった。大量に飛来した。
 - ①「宿営をおおい」
 - ②うずらのことは誰でも知っているの、それ以上の記述はない。
- 2. 朝になると、宿営の回りに露が一面に降りた。
 - (1) 露が上がると、後に何かが残った。
 - ①白い霜のような細かいもの
 - ②うろこのような細かいもの
 - (2) イスラエル人の反応
 - ①「これはなんだろう」「マン・フー」
 - ②初めて見る食べ物
 - ③詩 78 : 25

「それで人々は御使いのパンを食べた。神は飽きるほど食物を送られた」

(3) 【主】が食物として与えてくださったパンである。

IV. マナに関する命令 (16章16～34節)

1. 集める方法

(1) ひとり当たり1オメル(2.3リットル)ずつ集める。

①集めたものを積み上げ、各自に分配すると、ちょうどよかった。

(2) 朝まで残しておいてはならない。

①全部食べよという意味ではない。

②他の人に上げたり、家畜のえさにしたり、捨てたりできる。

③日々、【主】からのパンの供給に信頼することを教えている。

(3) ある者は朝まで、それを残しておいた。

①信仰が足りない。翌朝の供給を信じない。

②虫がわき、悪臭を放った。

③マナの本来の性質が腐りやすいということではない。

④不信仰への罰である。

⑤モーセの怒り。神の命令に従わないことへの怒り

(4) 朝ごとに、集めた。日が熱くなると、溶けた。

2. 6日目の規定

(1) 2倍のパンを集める。

(2) 7日目は「【主】の聖なる安息である」

①ヘブル語では定冠詞がない。

②初めて出てくる概念である。

③モーセの律法により、安息日の規定が定まる。

(3) マナの調理法

①焼いても、煮てもおいしい。

②そのままでも食べられる。

- ③調理するのは、味の変化のためであって、保存のためではない。
- ④翌日まで取っておいたが、それは腐敗しなかった。

3. 7日目の規定

(1) 前日から残ったものを食べる。

- ①安息の7日目は、マナと同様に【主】からの祝福である。

(2) 安息の7日目には、マナは降らない。

- ①民の中のある者は7日目に集めに出た。
- ②食べ物が不足しているからではない。
- ③モーセの言葉が本当かどうか試すために。
- ④何も見つけることができなかった。

(3) 【主】のことば

- ①祝福のことばは、命令のことばに変わる。
- ②「7日目には、あなたがたはそれぞれ自分の場所にとどまれ。その所からだれも出てはならない」
- ③「それで、民は七日目に休んだ」

4. マナという命名

(1) 「マン・フー」から来ている。

(2) 特徴

- ①コエンドロの種のように白い
- ②味は蜜を入れたせんべい（ウェファース）のよう。

5. 後の世代のために保存する。

(1) 壺の中に、1オメルのマナを入れる。

- ①ヘブ9：3～4

V. 補足説明（16章35～36節）

1. 40年間マナの供給は続いた。

(1) ヨシ5：10～12

- ①約束の地に入った時に、マナの供給は止んだ。

2. 1 オメルは1 エパの 10 分の 1

- (1) 1 エパは 23 リットル。

結論：このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

1. つぶやきの原因

- (1) 混じって来た人の存在
(2) 啓示への理解不足
(3) 奴隷の生活を忘れている。
(4) 信仰がない。

2. 神からの試みの意味

- (1) 【主】に従うかどうか。
(2) 日々のマナ、6日目の2倍、7日目の安息
①すべて特権であり、恵みである。
②その認識がないと、自分勝手な行動になる。
③恵みのことばが命令に変らざるを得なくなる。

3. マナが象徴するもの

- (1) マナは、主イエスを象徴している。

「これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きています」(ヨハ6：33)

- (2) 私たちへの適用

- ①神は【主】(ヤハウエ)である。

*マナは、記念として残された。

*【主】は必要を満たす神である。

- ②マナの奇跡は、自然と超自然の融合。

*イエスの2面性。人であり神である。

- ③マナは、ルールに基づいて集め、食べる。

*日々の行為

*7日目の安息

- ④マナは、完璧な食べ物である。

*コロ2：9

「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています」